多様性やパートナーとの関係性にも配慮する性教育が、現代の子どもの成長に役立つ

産婦人科医
埼玉医科大学 医療人育成支援センター・
地域医学推進センター 助教
高橋　幸子（さちこ）さん

若年層への性教育の普及や啓発に取り組む。全国の小学校・中学校・高校で年間100回以上の性教育講演を実施。NHK「あさイチ」「きょうの健康」、「夏休み！ ラジオ保健室〜10代の性 悩み相談〜」などに出演。『サッコ先生と！からだこころ研究所~小学生と考える「性ってなに？」』（リトル・モア、2020年）など著書多数。高校生向けの性教育パンフレット『#つながるBOOK』の制作にも関わる。

世界で広がる科学に基づいた積極的な性教育

「性教育」という言葉を聞いたとき、どんな内容を思い浮かべますか。もしかすると、一人ひとり、違うかもしれません。私は20年前の医学生の時に、「思春期の性感染症の予防のための性教育をしたい」と思い、産婦人科医になりました。産婦人科医になると、若年妊娠や未受診妊婦などの問題を目の当たりにするようになり、「妊娠」「避妊」「中絶」についても性教育の中で重要だと思いました。さらに性教育の勉強をしていくと、「性の多様性」を性教育の中心と捉えている人がいることを知り、「なんで？」と思っていました。「世界で性教育とは何を指すか？　先進国では性的同意や性の多様性などの人権教育を、後進国では避妊や性感染症などの貧困対策を指す」と聞いて、ストンとおちました。そして、日本の性教育はどこまでできていて、今、何に取り組まなければいけないのか？と次の疑問がわいてきました。

多くの国ではユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に則って性教育が行われています。国際セクシュアリティ教育ガイダンスでは8つのキーコンセプトに沿って、発達段階・年齢ごとに、繰り返し、積み重ねます。教室で、ディスカッションで行われるのが理想的です。2019年、スウェーデン性教育視察ツアーで聞いてきた話では、私が中学3年生に外部講師として90分間講演している内容を、小学6年生で、6時間もかけて、生徒同士のディスカッションで学んでいました。学校で、低年齢のうちに学ぶ必要があるのは、一つは家庭によって性教育をできる力に差があるからです。もう一つはインターネットから歪んだ性の情報が入ってくる前に、正しい知識を先に身につけることが、「鎧でお守り」になるからです。さらには性的な行動をとることを選択するようになった時に、豊かな性を育くみ、（望む人が）次の世代を育むために必要なのは、脅しの性教育ではなく、科学に基づいたポジティブな性教育なのです。

国際セクシュアリティ教育ガイダンス 8つのキーコンセプト

1. 人間関係
2. 価値観、人権、文化、セクシュアリティ
3. ジェンダーの理解
4. 暴力と安全確保
5. 健康とウェルビーイング（幸福）のためのスキル
6. 人間のからだと発達
7. セクシュアリティと性的行動
8. 性と生殖に関する健康

情報社会において子どもを守る性教育を考える

日本の性教育の現状を見てみると、学習指導要領では小4で月経と射精、小5でヒトの誕生、小6・中1で二次性徴、中3で性感染症、高校で避妊を学びます。結構きちんと行っている、と感じる方もいるでしょうか？　しかし、「性交」については扱わないという歯止め規定があります。更に、コロナ禍で特に問題が浮き彫りになってきた「性暴力」については学ぶ機会がありませんでした。

そこで、生命（いのち）の安全教育が始まります。すでに文科省から教材が発表され、2023年からはすべての学校（幼保・小・中・高・大）で「プライベートゾーン・性的同意・デートDV」について学ぶことになります。

例えばこのようなシーンを想像してみてください。

「SNSで知り合った22歳の男性と初めて実際に会い、ラブホテルに行った18歳の女性です。性行為には同意していたけれど、コンドームを使うことに同意してもらうことができず、そのまま無理矢理されてしまいました。緊急避妊薬と性感染症検査を求めて産婦人科を受診してきました。」

彼女は避妊や性感染症の知識はありました。困ったときに産婦人科を受診するという事も出来ています。しかし、コンドームを使う、というネゴシエーション（交渉）ができず、セーファー（より安全な）セックスをすることができなかったのです。包括的性教育では、相手との交渉をロールプレイを通して学んだり、SNSの上手な使いかたも重要な学びの一つです。そもそも、SNSで知り合った人と、初めて会うその日にホテルに行くという行動自体が、無防備だと指摘されるかもしれませんが、私たち大人の世代は、危険なもの、分からないもの、知らないものには「近づくな」と言いがちですが、現代の若者にはSNSは生まれた時からあります。いかに上手に利用するかを、学校という守られた場にいるうちに学ぶことが重要です。

保護者も参加できる機会をつくる

初めは恥ずかしそうに、または面倒くさそうにしていた生徒さんも、全集中で講演に聞き入ります。感想文には、「今日この話を聞かなければ、大変なことになるところだった」「こういう話題は自分では調べたりしないので聞けて良かった」「今すぐは関係ないかもしれないけれど、一生覚えておきたい」「授業で習った時は自分には関係がない事だと思っていたが、自分の身近にあるものなのだとわかった」「ネットの情報はあっているのか不安」など多く書かれます。

一度聞いただけでは定着しません。できれば、学校の性教育講演会などありましたら、保護者も一緒に参加できると理想的です（コロナ禍なので、後日YouTube配信をするという学校も増えてきました）。子どもたちは「親にだけは知られたくない」とよく言いますが、病院受診には保険証もお金も必要です。家庭では「困ったときの相談相手は保護者で大丈夫だよ」という事をあらゆるチャンスを捉えて声がけして欲しいと思います。そのためには、お子さんが、何をどこまで知っているのか、共有できる必要があるのです。さらに、大人が学ぶことで頭ごなしに叱るのではなく、寄り添うことができ、想像力を働かせることができるようになります。

本を活用し、家庭でも学習を

性教育の本を活用しましょう！　赤ちゃんってどうやって生まれる？という質問が最初の性教育のチャンス！だと言われています。聞いてこない子にも、自分のからだは自分のもので、とても大切だと伝えることで性暴力被害から身を守ることができます。保護者向けの2冊をご紹介します。命育『子どもと性の話、はじめませんか？』、川村真奈美『初めて「性」のこの話、『サッコ先生と！からだこころ研究所～小学生と考える「性ってなに？」』をお勧めします。中高生には『#つながるBOOK』を教えてあげて下さい。Web版、PDF版があります。これは全国初の快挙なのですが、さいたま市の市立高校では、全員の高校生に『#つながるBOOK』が配布されます。

さいたま市ではパートナーシップ宣誓制度も施行されていますね。さいたま市から埼玉県、全国に向けて、包括的性教育、広がっていきますように！

年齢別学習目標と主な内容

ユネスコ「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」、東京新聞（2018年4月7日）より作成

レベル1（5〜8歳）
赤ちゃんがどこから来るのかを説明する
- 卵子と精子が結合して赤ちゃんができる
- 排卵、受精、受胎、妊娠、分娩など多くの段階がある

レベル2（9〜12歳）
どのように妊娠するのか、避けられるかを説明する。避妊方法を確認する
- 無防備な性交は、妊娠やHIVなど性感染症にかかる可能性がある
- 常にコンドームや避妊具を正しく使用すると、意図しない妊娠や性感染症を防げる
- 低年齢での結婚、妊娠、出産には健康上のリスクがある

レベル3（12〜15歳）
妊娠の兆候、胎児の発達と分娩の段階を説明する
- 妊娠には検査で判定できる兆候や症状がある
- 妊娠中の栄養不足、喫煙、アルコールや薬物使用は胎児の発達へリスクがある

レベル4（15〜18歳）
生殖、性的機能、性的欲求の違いを区別する
- パートナーとの性的な関係で、双方の合意はいつも必要
- 意図しない妊娠や性感染症を防ぐ方法を事前に考えることが必要